

少連協ニュース

○発行/足立区少年団体連合協議会 〒120-8510 東京都足立区中央本町 1-17-1 足立区役所青少年課 青少年事業係 TEL 03-3880-5275
○発行人/山本輝夫 ○編集/調査広報部 田中 川田 市川 鈴木(春) 辻村 岩井 熊澤 仁科 常田



▲感染対策をしながらの行事 キャンプ・ドッジビー・運動会

笑顔に答える



足立区少年団体連合協議会
会長 山本 輝夫

ジュニアリーダー「冬季宿泊キャンプ・事後報告会」が1月20日、参加者と保護者を交えた会場での一コマです。12月17・18日の5年生城南キャンプはコロナ禍の影響で実施が危ぶまれたが「5年生の期待に応えたい」と熱い思いが実現に至りました。

夏季中の企画に踏み切れず調整の結果、年末開催となり繁忙期で役員・育成部・指導スタッフ・教育委員会の協力と支援にお詫びと感謝を申し上げます。

5年生に参加した感想を聞くと「楽しかった」「参加してよかった」「次のリーダー研修会に参加したい」「夏季御殿場キャンプに必ず参加する」目を輝かせて答えてくれた。主体的な考えと自己肯定感が感じとれた。

指導に参加する大学生・高校生・中学生の役割が大きい。「身近にサポートを行う側と受ける側」の双方が学び合え、お互いがリスベクトする有意義で貴重な体験である。

後輩に寄り添い指導者としてのコーチングは成果を高めた。「循環型地域社会形成」の道筋が先に見えてきた。

指導者クラブ・ジュニアリーダークラブの存在が運動し相乗効果を発揮する。少連協のフレームワークは着実に進化し具現化している。今後も地少協・スポーツ少年団・他団体との連携が欠かせない。地域社会に貢献する組織として広く存在意義を発信する。

子どもたちの主体性をどう育むか・・・？ 子どもたちの心をどう受け止めるか・・・？

令和4年度の環境下において有益な知見を得た。果敢に取り組む少連協の活力を「子どもたちの笑顔に答える」子どもたちの可能性を引き出すために、「少連協2023年度」新たな始動がはじまる。

目次

会長あいさつ・P1 金子連研究会・表彰・P2 東京都子ども会育成研・江東五区少年団体代表者会議・P3 6年生城南宿泊キャンプ・P4 5年生城南宿泊キャンプ・P5 第15回ドッジビー大会・P6 地少協活動・・・P7 ジュニアリーダー・・・P8

第55回全国子ども会育成中央会議・研究大会

足立区少年団体連合協議会副会長

四宮 淳司

全子連育成研が3年ぶりに令和4年10月29日から3日間に渡り長野市芸術館、ホテル国際21他で開催され山本会長以下5名で参加致しました。

足立区からは個人表彰で日高佐和子様、団体表彰（都子連育成研 令和4年11月6日にて表彰）わかば子ども会、新田ジュニアクラブが表彰されました。受賞者の皆様おめでとうございます。

研究会・分科会では

○スローガン

「地域とともに歩む子ども会を考えたよう」

○キーワード

「体験活動から学ぶ地域社会とのつながり」

をテーマに自然豊かな信州の地で議論が行なわれました。

子ども達を取り巻く環境はこの30年ほどで著しく変化してきました。

IT社会と呼ばれる情報化、デジタル化の波が一気に押し寄せ、大人、子どもを問わず飲み込まれてしまいました。

今では企業から学校、家庭生活にまで及び、デジタル機器なしでは生活自体が危ういほどにまで浸透しています。

このように目まぐるしく変化する社会の中では、自ずと子ども達の生活も変化せざるをえません。学校のある日も休みの日も時間があればSNSやゲームに夢中です。さらに昨今のコロナ禍での新たな生活様式も一層拍車をかけています。

子ども会活動にはお祭りやキャンプ、スポーツ、ボランティアなど、地域の中での集団活動、異年齢交流を通じた素晴らしい活動があります。今こそ地域の中で子ども会がどのような役割を担うべきか、再考する時期、チャンスと捉え活動していきましょう。

全国子ども会連合会表彰を受けて

江北地少協

日高 佐和子

開会式後、全国より参加された子ども会関係者39団体、個人留名の表彰が行われ個人表彰のひとつとして、出席いたしました。

全国の子ども達の健全育成の為に皆様方が日々努力を続けられていることを知ることが出来、貴重な経験させていただきました。

地域の地少協ジュニアリーダー研修会、ビーチバレーボール大会などのお手伝いを通して参加した子ども達に「今日は楽しかったです。」と言われたその一言、その笑顔がうれしく長い間続けることが出来たと、子ども達に感謝です。

また、ご推薦をいただきました東京都子ども会連合会、足立区少連協の皆様にお礼申し上げます。

保護者そして何より活動に参加してくれたすべての子ども達のおかけと心より感謝しております。

私が育成会会長に就任してから1年足らず。未だにコロナ禍にあり思うような活動ができないのが現状です。また会員数の減少など運営上の課題は多いですが、子ども会の地域での役割や子ども達への関わりに必ず意味があるものと信じております。

今現在、参加してくれる子ども達を大切に、感謝の気持ちを持って引き続き活動して参ります。

新田地少協 新田ジュニアクラブ

齊藤 啓一郎(19)

この度は表彰していただき誠にありがとうございます。今まで積み重ねてきたものが、今回こういった形に残るものとして評価されたことを非常にうれしく思います。

ここ3年ほど新型コロナウイルスの感染拡大で多くの行事が中止となり、満足に活動できない状況が続きました。活動ができないうちからメンバーの経験の機会が減ってしまいました。地域内で新田ジュニアの存在を知ってもらえる機会もぐんと減ってしまいましたので新田メンバーも少なくなっています。

そんな状況ですが昨年は出来ることから少しずつ再開しました。久しぶりの活動では、何をどういった感じで行っていたのかを思い出すことができました。

これからも少しずつですが、頑張っていきますのでよろしくお願いたします。



▲江北地少協 日高佐和子さん

浦原地少協

わかば子ども会

育成会会長 發地 美枝子

この度、全国子ども会連合会より日頃の活動とその成果を讃えて頂き表彰状を、また育成会には感謝状を頂戴いたしました。

わかば子ども会は2005年に近隣の複数の子ども会が合併し発足しました。今回の受賞は合併以前からの育成会会長、役員

の受賞は合併以前からの育成会会長、役員

の受賞は合併以前からの育成会会長、役員

第51回「東京都子ども会育成研究協議会」開催

調査広報部 川田 和美

令和4年11月6日(日)、日本教育会館「二ツ橋ホール」において、全国子ども会連合会・東京都子ども会連合会が主催となり、都内の子ども会関係者が集まり、「東京都子ども会育成研究協議会」が開催されました。

コロナ禍で自由に活動できない状態の中で、これからの子ども会は何を求められているのか、子どもに寄り添える育成者・指導者の発掘と要請をどのようにしていくのが研究課題となりました。

この育成研に先立ち、子ども会並びに子ども会活動助成に概ね10年以上あったりしている指導者・育成者に対して表彰式があり、足立区では次の方々表彰されました。

個人 大関 英広氏(第六地少協)

中村 清代氏(舎人地少協)

団体 西新井本町二丁目子ども会(第五地少協)

育成研では、「with/after コロナにおける子ども会活動のあり方」をテーマに、東洋大学 小瀬博之教授より、基調講演が行われました。

講演では、大学と市民の協働による「環境を生かしたまちづくり」の中で取り組んできた活動が紹介され、子ども達とともに作る持続可能な地域社会



▲金子連受彰 新田ジュニア(新田)、わかば子ども会(蒲原)
都子連受彰 大関さん、中村さん、本町二丁目子ども会(第五)

のあり方を考えていく今後の活動の取り組みの参考となりました。

午後の部では子ども達も参加して、ビトレ弦楽奏団による「音楽の絵本」のファミリーコンサートが行われ、名作「手袋を買いに」をさわやかな弦楽アンサンブルと、ほのぼのとしたスライド絵と、やさしい語りで織りなす「お話コンサート」や、いろいろな弦楽器の音に親しめる、「音楽あそび/クイズ」も行われ、子どもも大人も楽しい時間を過ごしました。

江東五区少年団体
代表者会議

副会長 田中 加代

令和5年2月5日(日)葛飾シンプォニーヒルズ別館にて江東五区少年団体代表者会議が開催されました。今年度はコロナ感染拡大防止の為分散会形式の会議は行わず、講演のみ行われました。テーマは、「コロナ禍における子ども会活動の在り方」でした。講師の斎藤英子氏は、心理学を学ばれ、ご主人の転勤時アメリカ、イギリスでも更に専門家に従事した経験からお話をいただきました。Here and now を信条として、今の閃きを大切に、と話された後講演開始から5分もたないうちに、眠から眠ってください、と言われました。対人関係についての心構えを日曜日の午後の講演に合わせて具体例を出されたものでした。学校、職場、団体など全員に好感を持たれることはなく、ほぼ2割の人は、好意的ではないというパレート法則(2割の法則)で人の目を気にせず、リラクセスしていろいろなものに挑むことが望ましいとのことでした。

○コロナ禍において多くの人が失われたコミュニケーションをとる機会、社会性を身につける時間・空間・仲間の存在失って改めて大切さを感じる。
○小・中学生の時期は成長が著しいため、心理発達課題も生じてくる。コミュニケーションをはかることが解決策となる。思考・感情・事実を伝え合う人と

関わることで成長していく。
○自分を認めてくれる場所・人がいる健全なつながりと、話すことにより自分を俯瞰する程よい距離感が心の傷を意欲ややる気に変化させる。
○自分の中にも存在する2割の法則自分らしくない自分は必ず存在する。
○自分らしくない自分が出てきた時は、自分と向き合い自分を褒める。
○自分らしさを表現するには、言葉に出して自分を俯瞰する。
○自分を知るには、客観視して無自覚に自分を責めないようにする
○自分を育てるにはグレイゾーンを認める。

○今後の子ども会の役割の一つとして、家庭・学校でもない「第3の風」を吹かせること。
大人にも、子ども達にも共通するアドバイスをいただきました。

誰かが傍にいる。家庭、地域、団体そんな安心感を与えられる存在になれるよう、頑張りすぎずに活動していきたいと思う講演でした。



齋藤 英子 氏

講師プロフィール
・保護司
・人権擁護委員
・元日本教育カウンセラー協会認定
上級カウンセラー



▲6年生 鋸南・宿泊キャンプ 1日目ビーチコーミングの海岸で

7月に行った中学生のキャンプから3か月、6年生のキャンプがいよいよ始まる。新型コロナウイルス感染症の影響で1か月延期しての開催になる。区内25校の小学校から集まった49名の6年生と一緒に鋸南自然の家での3日間が始まった。

今回のキャンプは鋸南を遊びつくす。海岸まで歩いてビーチコーミングをしたり、施設内にある池や沢を探し、沢蟹を見つかったり、ビーチコーミングで拾った貝殻を使いオリジナルのフォトフレームを作ったり、真つ暗な夜道を手探りで歩いたり、5年生の時に使ったはずの施設なのにまだまだ知らないところを見つけれられたと思います。

1日日夜のキャンプファイヤーは星空の下、大きな炎はまさに6年生たちの希望と情熱を表しているようでした。2日目はいよいよ飯盒炊爨。各班協力し合いブロックを運びかまどを組み、薪をくべて火をおこし、美味しいカレーライスを作りました。同じ材料を使って作ったカレーライスなのですが班ごとに味が違うカレーライスができるのがキャンプならではの、雨天プログラムではスポーツ推進委員さんの指導による、ポッチャを体験することができました。初めて体験する児童も多く、どうなるかと心配しましたが、予想以上に盛り上がり、次年度の研修会にも取り入れようと思われました。

6年生 鋸南・宿泊キャンプ

育成部長 鹿浜 安弘



▲キャンプファイヤーを囲んで

このキャンプを成功させるために高校生ジュニアリーダーは4月から集まり準備をしてきました。プログラムの構成、キャンプ場の実地踏査、キャンプ用品の搬入、7月には中学生キャンプ。中学生キャンプを振り返り、反省を生かし今回の6年生のキャンプにつながったと思います。1年を通して会っている、それぞれの個性や性格が理解でき、信頼関係もよくなり、良い団結力が生まれています。この団結力を維持しながら、次年度入ってくる高校生たちに繋いでいって欲しいです。

今年度はもう一回キャンプを行います。今年度は5年生を引率して1泊2日のキャンプです。今年度の集大成となるように心ひとつに！



▲5年生 鋸南・宿泊キャンプ 2日目 施設内の野外ステージ

5年生 鋸南・宿泊キャンプ

キャンプ長 田中 加代

12月17日(土)、18日(日)当初の計画より2か月遅れて5年生の宿泊キャンプが行われました。

今年の秋は気温が高めでしたが、冬の到来を感じさせる出発の朝となりました。

梅島小学校に集まった5年生は、不安と期待でドキドキしているようでした。

バスの中では、高校生から夜のキャンプファイヤーに向け、歌の指導があり、リーダー達の意気込みが感じられました。

鋸南で入村式を終えるとすぐに電体験です。班員で協力しブロック、薪を運び簡易竈を作り初めて火起こしをし、カレーを作りました。今回は火起こしに重点を置いた為、半調理の野菜、肉を入れカレー粉を入れて作りました。みんなで火を起こし、作った昼ごはんを食している表情はとても満足そうでした。

その後、敷地内の散策を行い、館内で思い出のキーホルダーの作成を行いました。おやつは、スタッフが焚火で作った焼きいもとココアでした。

夕食後は、天候の崩れも予想された為、館内でキャンドルファイヤーです。ひとりひとりがLEDキャンドルを持ち、

キャンドルツリーを組み上げました。ちよつと早いクリスマスキャンドルのもとチューターカウンセラーと一緒に

沢山のキャンプファイヤーゲームで楽しみました。リーダー達は、みんなの前で、全力でやること、恥ずかしがらないこと、をしっかりと全身を使い伝えていました。

2日目はスタンブラリーです。晴天に恵まりましたが、鋸南特有の海風の洗礼を受けながら、過酷な課題を班で協力し、クリアしていきました。

一泊二日でしたが、7月の中学生、10月の6年生キャンプの2泊にも負けない盛り沢山のプログラムがありました。閉村式では昨日の朝の不安げな表情は、班員で協力して、いろいろな事を成し遂げた自信に満ちた顔に変わっていました。4月から一年を通して3回の宿泊研修を企画、協力してくれた足立ジュニアリーダークラブ、キャンププロジェクトスタッフの皆さん本当に有難うございました。



▲キャンドルファイヤーで踊る5年生

第15回 ドッチビー大会

事業統括部 副部長 桑原 敏昭

少連協恒例のドッチビー大会が3年ぶりに総合スポーツセンターで2月11日に開催されました。

昨年はキャブテン会議の冒頭で中止が決まり、くやししい思いをした子ども達も多かったと思います。今年はコロナウイルス感染症対策を徹底して、午前の部で終わるように準備をしました。

大会当日は総勢18名の選手が13チームに分かれ小学生の部が開催されました。

正・副賞だけでなく練習もホイッスルを使用したり、監督ゾーンを作るなど、選手・

監督・観客に満足していただけるように改良を致しました。子ども達も最初のゲームは、なかなかディスタが水平に飛ばせなかったですが、試合を重ねるたびに、水平に飛ばせて上手になっていきました。ドッチビー大会を通して子ども達の心に残るものと思っております。スポーツ推進委員、ジュニアリーダの皆様、ご協力ありがとうございました。

優勝インタビュー カバチジュニア

- Q 優勝した今のきもちや？
A めちゃくちゃうれしい
- Q ドッチビーの練習は楽しかったですか？
A すてえ楽しかったです
- Q 何回くらい練習しましたか？
A 週に1回を3か月
- Q 練習でつらかったことはありますか？
A 全然なかった
- Q 来年度も参加したいですか？
A はい、絶対したいです。



▲優勝 カバチジュニア <蒲原地少協>



▲準優勝 HIBIKE <第十一地少協>



▲3位 愉快的仲間たち <第五地少協>



第15回 ドッチビー大会 エントリー表

NO	地少協	チーム名
1	江 北	五色旗
2	蒲 原	カバチジュニア
3	第十五	さくら ウェスト
4	第 五	愉快的仲間たち
5	保 原	朝田町会子ども会
6	保 原	花保親交利会子ども会A
7	保 原	花保親交利会子ども会B
8	保 原	保戸町会児童部
9	保 原	花保親会子ども会
10	第 六	第六地少協
11	郡	ピンクパンサー
12	第十一	HIBIKE (ヒビク)
13	新 潟	飯沼キッズ

小学生決勝ブロック

代表ブロック/リーグ	A組 15分制(15分)	B組 15分制(15分)	C組 15分制(15分)	順位	対戦相手	結果
A組 第 五地少協/愉快的仲間たち	対戦相手	×	×	1	対戦相手	▲
B組 カバチジュニア	対戦相手	対戦相手	×	2	対戦相手	▲
C組 HIBIKE (ヒビク)	対戦相手	対戦相手	対戦相手	3	対戦相手	▲

地少協の活動

3年ぶりの運動会

新田地少協 会長 大庫 悦子

コロナ禍2年の間、運動会等多くの行事が中止に追いやられました。我が新田地少協では、過去60年間で運動会が中止になったのは初めての事でした。毎年4月29日に新田小学校の校庭で行われ、不思議と晴天に恵まれていました。新田地域の方々の大きな助成で運動会を運営してこられました。

この2年間に3つの子ども会が解散してしまいました。子ども会の数が減ってしまったので、子ども会対抗の競技は全て行うことが出来ません。一番盛り上がる対抗リレーもできない状態で、運動会を本当に開催できるのか？とても不安な毎日でした。

しかし、4月29日当日は、多くの子ども達が集まってくれて、元気に競技に参加してくれました。子ども達の大きなガンバリを見て子ども会の未来を信じることができました。

最後に、新田地少協には新田ジュニアクラブの大きな力が加わっていることを誇りに思っています。



第51回親と子のふれあい大運動会

涇江地少協 会長 五十嵐 渉

涇江地少協は7町会、小学校5校、中学校3校が集まって構成されています。会員数は現在407名の団体です。

コロナ禍で3年ぶりの運動会開催。会議を何度も重ね、コロナ対応として競技種目の内容変更を検討しました。役員の皆様から沢山の提案を頂き開催できる流れができました。以前は午前午後と2部制でしたが、感染対策の為お昼の食事を無くしました。次の問題は競技を全て入れるのは時間的に厳しく、開会式と競技間の短縮の提案があり、運営役割分担チームを決めた上で、これまでの反省点を生かし、担当ごとに集まり意見交換をしました。

皆様と意見交換をする度に団結力が強まり、開催に向けての強い気持ちを感じられました。

また涇江地区では涇江中、竹の塚中、六月中、各学校に協力頂き、伝統の中学生ボランテニアが毎年、運営のお手伝いをしてもらっています。

3年ぶりの開催で中学生ボランテニアは全員未経験という中で、大人のボランテニアも思い出しながら心配事は尽きませんでした。天気にも恵まれ11月13日(日)に無事に開催する事が出来ました。参加者は大人、子どもを合わせ200名、例年よりは少ないですが、動く事が次年度に繋がると思います。

また、運営も皆様が連携し順調に行進でき時間も押すことなく終了する事ができました。

各町会から子ども達も大人も喜んで

いたと参加者からの声も聞けました。できない事を考えるのではなく、できる事をこれからも皆様と考え、発展ある団体にしていきたいと考えます。

また各団体、町会、地域の皆様、中学生ボランテニアの皆様、会場を提供して下さった保木間小学校、校長先生、関係者の皆様方本当に協力ありがとうございました。



▲涇江地区の運動会

久しぶりに見た子ども達の笑顔

中川地少協 会長 下島 泰則

毎年、年間行事予定を計画するも実施できない年が続くなか、昨年の夏まだ感染者数は高止まりではありましたが、秋ごろには減少するとの予測がなされ、実施するならこの時期しかない、ここ2年実施できていなかった運動会を開催することを決めました。

しかし、例年通りの開催はまだ無理と判断し、開催する為にはどの様にするか考えました。

次のような基本的な感染予防対策を行いました。



▲中川地区の運動会

- ・テント内で密集する昼食(弁当)は中止
- ・競技を午前中に終了させるため、子ども中心の競技だけに絞り込む。
- ・観戦者はなしとし、ご来賓にはお声がけをしない事
- ・保護者も子ども達を引率する保護者だけ
- ・競技前後機中及びテント内はマスクをする事

10月30日大谷田小学校校庭をお借りし実施した運動会は、天気にも恵まれ約200人、(子ども達は150人)の参加がありました。例年よりは少ない人数にはなりましたが、久しぶりにたくさんの子どもの笑顔が見られた事は良かったと思えました。

また、12月4日には60人の子ども達が参加しスポーツ推進委員の皆様のご協力を得て大谷田小学校体育館にて、午後からドッチビーとフラッグ鬼ごっこ大会を実施し、ここでも子ども達の笑顔がたくさん見ることができたことは良かったと思っています。

次年度こそは、例年通り各行事ができるような状況になることを願う次第です。

ジュニアリーダー

になって地域で活躍しよう!!

ジュニアリーダーとは？

基本的には、子ども会での若いリーダーのこと。子ども会だけではなく、これから紹介するジュニアリーダー研修会等で教える側、スタッフとして仲間を引っ張るリーダーとなり、地域で活動する中高生のことをいいます（子ども会への入会は任意です）。

学校や家庭では経験できないことや、何か新しいことを知りたい人、違う学校や学年の人と話してみたいと思う人、自分にもっと自信をつけたい人などは、ぜひ研修会に参加してみてください。

より多くの人と関わることで、自分でも気づけなかった新しい自分を発見できるかもしれません。

詳しくはこちら

STEP 01 まずは申請！
研修会に申し込んでみよう！

4月に学校を通して募集のチラシをお配りします。（小学4年生以上）
チラシを確認の上、青少年事業係へお申込みください。

STEP 01

小4～小6
対象

ジュニアリーダー研修会

開催時期：4月～6月
開催場所：区内小中学校および地域学習センターの
体育館など（主に16か所）

参加費：無料
内容：「レクリエーションゲーム」や「クラフト工作」
「新聞ドーム」等
3時間の講座を3コマ

楽しめたい
いっぱいできる！

3コマ修了者には、
宿泊キャンプの
チャンス

STEP 02

ジュニアリーダースーパー研修会

★前期（中学生）
開催時期：5月～8月
開催場所：区内施設
参加費：無料
（※野外炊事等の材料費は500円程度必要）
内容：「野外炊事」や「危険予知トレーニング」等、
3時間の講座を5コマ

★後期（小学6年生）
開催時期：10月～2月
開催場所：区内施設
参加費：無料
内容：「ウォークラリー」や「アート講座」等、
3時間の講座を6コマ

STEP 03

★前期（中学生）のみ
スーパー研修会参加者にも
宿泊キャンプの資格が！

宿泊
キャンプ

自然を感じながら、
いろんなことに挑戦しよう!!

小5～中学生
対象

★【中学生・小学6年生】
開催時期：7月頃（2泊3日）
開催場所：国立中央青少年交流の家（海城港市）
内容：かまど講習、飯ごうすいさん、キャンプファイア等
※参加費がかかります（18,000円程度）。

★【小学5年生】
開催時期：11月頃（2泊3日）
開催場所：足立区立飯沼自然の家
内容：グループワーク、炊事、キャンプファイア等
※参加費がかかります（18,000円程度）

こんな体験
学校ではできない！

ジュニアリーダークラブ

ジュニアリーダースーパー研修会を修了した中学生と高校生で構成された組織です。今度はあなたがジュニアリーダー研修会やジュニアリーダースーパー研修会で教える番です！

この組織は
ジュニアリーダー！

『教育だより』vol84号より引用

～We are Junior Leaders～

- | | |
|--|--|
| <ul style="list-style-type: none"> ☆具体的にやっていること☆ ・研修会でレクリエーションを教える ・宿泊キャンプのプログラムを企画し、実施する ・宿泊キャンプでカウンセラーとなり、話をまとめる ・キャンプ終了後に懇話会を作成する ・地域の子ども会でのイベント（お祭りやバスハイク、ドッヂビー大会等）のお手伝い | <ul style="list-style-type: none"> ☆クラブに入って良かったこと☆ ・コミュニケーション能力が磨かれた ・学校や学年を超えて、信頼できる友だちができた ・人前に立つことに抵抗がなくなり、積極的に意見を出し、前に出られるようになった ・仲間と協力する楽しさを知ることができた |
|--|--|

皆さんと会えることを楽しみにしています！

キャンプアンケートの声

参加者の声

- ・初めて参加したけど、新しい友だちもたくさんできて嬉しかった！
- ・たくさんおもしろい遊びを体験できた。
- ・かまどでご飯をたいたり、良い経験になった。
- ・子どもが楽しかったと目を輝かせながら話してくれました。
- ・色々なことを体験させてもらい、一回り成長して帰って来ました。

保護者の声

編集後記

コロナウィルス感染拡大防止の為にさまざまな活動が規制されて3年。ウィズコロナで感染対策をしながら活動をした地少協。地域により活動はさまざまですが、来年度は、従来の活動ができそうです。

子ども達の笑顔に励む為に、ブランクを乗り越え頑張って活動をしていきたいと思えます。

69号を発行するにあたりご協力いただいた皆様ありがとうございました。